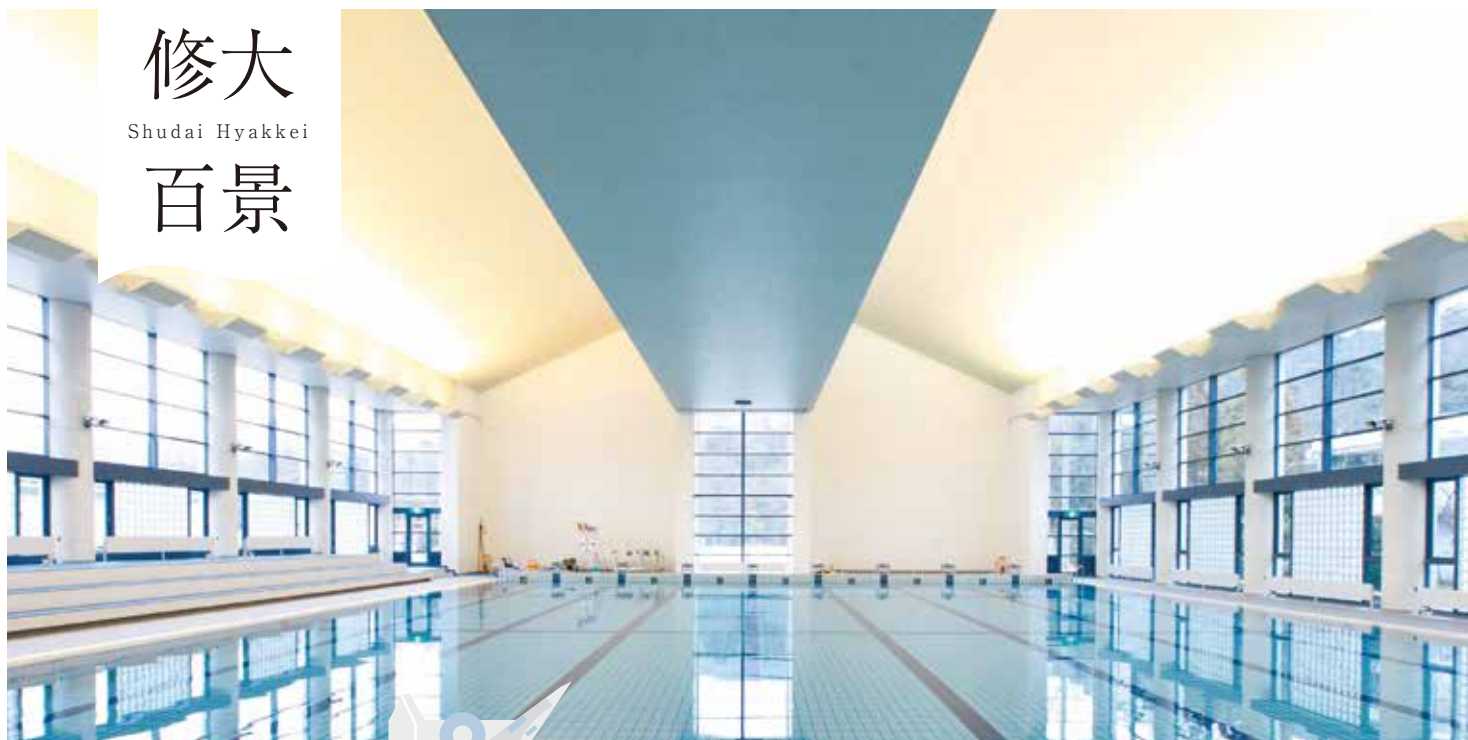


修大 百景

Shudai Hyakkei



修大プール

1987年10月竣工。今年で38年目を迎える修大フォーラムの1階にある、タテ25m、水深最大1.45m、8コースの温水プール。授業での使用はもちろん、学生の課外活動、大会、学生・教職員の健康増進などにも使用されています。



Truth

バックナンバーはこちら >>>



広島修道大学公式SNS >>>



X (旧 Twitter)
@shudo_u



YouTube
@shudo_university



Instagram
@shudo_university



Facebook
@HiroshimaShudoUniversity



広島修道大学

学長室総合企画課

〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1-1-1
TEL 082-830-1102 FAX 082-830-1324
WEBサイト <https://www.shudo-u.ac.jp/>



Truth

Hiroshima Shudo University

もっと知りたい、広島修道大学

秋号

2025



Vol.

232



道は、未来へ
つながる



挑戦の先に、新しい道がある。

広島修道大学



9月の新体育館竣工後、取り壊しが予定されている体育館の壁に教育学科の学生や近隣の小学生とその保護者が絵を描く、壁画アートイベントを7月と8月に開催しました。

7月の学生向けのイベントは、「ありがとうの気持ちを込めて」と題し教育学科沼本秀昭教授の授業内で行われ、学生89名が参加しました。学生たちは、体育館との別れを惜しみつつ、感謝の気持ちを込めて描いていました。学生からは「思い出の詰まった体育館にしっかりと感謝の気持ちを伝えることができた」、「今まで描いた絵の中で一番大きな作品。全身を使って描いたことにより、達成感があった」、「みんなで一つの作品を協力して描くのは楽しい」などの感想が寄せられました。

8月の近隣住民向けのイベントは、「まるで水族館!!～大きな壁に自由にお魚を描こう～」と題し、「修大教育学科 Education Challenge」*の一環として行いました。当日は小学生とその家族12組34名が参加し、普段は描くことができない体育館の壁に絵を描くという事を楽しみつつ、体全体を使って創造的に表現していました。

*人文学部教育学科は、さまざまな年齢・ニーズをもつ人々に対して学内外で、学科内の教育・研究成果を地域に還元する挑戦的・独創的な学習・子育て支援活動を行っています。2024年度からはこれまで行っていた各種の学習・子育て支援活動を取りまとめ「修大教育学科 Education Challenge」という名称で実施しています。



▲地域の子どもの作品



▲学生からの感謝の言葉「おもいでいっぱい😊いままてありがとう」



▲7月学生向けイベント



▲8月小学生向けイベント



ぬまもと ひであき
沼本 秀昭教授
人文学部教育学科
専門：芸術学、教育学

芸術の秋。広島県には29の美術館があります（文部科学省2021年「社会教育調査」）。これは全国13位の多さです。その一つ、広島市中区基町にあるひろしま美術館は、街の中心部にあり、広島城等の観光施設にも近いことから、市民や国内外からの観光客が気軽に立ち寄ることができます。

先日、この美術館で話を聞く機会がありました。1978年に開館した美術館には、たくさんの広島への思いが込められているそうです。初代館長である当時広島銀行頭取の井藤勲雄氏は、広島の文化が一瞬にして壊滅したご自身の原爆体験から、美術を通じて市民へ「愛とやすらぎ」をもたらすという信念をもって事業を進められました。特徴的な円形の建物の中心に立つと、原爆ドームのような丸屋根からやさしい光が降り注ぎます。建物の周りには水が流れています。湿度管理が重要な美術品を展示する建物を水で囲むことは常識では考えられない案ですが、水を求めてさまよった原爆犠牲者への鎮魂の思いから、あらゆる技術を尽くして実現されました。原爆投下から80年、これからも市民へやすらぎをもたらし続ける存在であってほしいと思います。

著名な作品が数多く所蔵されており、特に印象派等フランス近代絵画が充実しています。私の好きなコローの作品もあり、ヨーロッパの美術館に行かなくてもふと鑑賞できる機会があることに広島に住む幸せを感じます。本学はひろしま美術館キャンパスメンバーズに加入しており、学生の皆さんは学生証を提示すると無料で鑑賞ができます。ぜひ在学中に何度も訪れてほしいと思います。

やの いずみ
学長 矢野 泉



模写『カステル・ガンドルフォ、アルバノ湖畔で踊るチロルの羊飼』
(ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー)

作 矢野 泉

CONTENTS

- 2 SHUnDAI 旬な修大
- 4 特集座談会
『繋ぐ平和のボタン
ヒロシマで私たちができること』
学長 矢野 泉
×
国際コミュニティ学部 佐渡 紀子
×
河内 庸二さん
人文学部英語英文学科4年
×
近藤 有里さん
国際コミュニティ学部国際政治学科4年
- 10 未来への探求
小須田 翔 准教授 国際コミュニティ学部
- 12 修大人の飛翔 -活躍する卒業生
杉 葉子さん
有限会社IC4DESIGN グラフィックデザイナー
- 14 修大人 -在学生紹介
井手 悠斗さん
経済科学研究科経済情報専攻
博士前期課程1年
- 15 海外留学記
LE HOANG NGOC CHAUさん
- 16 サークルインフォメーション
広報スタッフインタビュー
- 17 Shudo×SDGs
地域食材を使用したレシピの開発
- 18 Campus News
- 20 INFORMATION
- 24 修大百景
修大プール



特集座談会

繋ぐ平和のバトン ヒロシマで 私たちができること

被爆80年を迎える今、平和の尊さを次世代へ繋いでいくために、私たちに何ができるのでしょうか。
学長と、国際コミュニティ学部長、平和に関わる活動・研究を行う2人の学生が、
それぞれの取り組みや大学の展望について語り合いました。



人文学部英語英文学科4年
かわち ようじ

河内 庸二さん

広島市立舟入高校出身。広島市の街が復興する様を描いた「Pride of Hiroshima展」にてアテンドスタッフを務める。



国際コミュニティ学部国際政治学科4年
こんどう ゆうり

近藤 有里さん

広島県立祇園北高校出身。「平和教育の地域差」をテーマに卒業研究を進める。



広島修道大学 学長
やの いずみ

矢野 泉

広島県出身。商学部教授。広島大学大学院生物圏科学研究科博士後期課程修了。博士(農学)。専門は食料流通学。商学研究科長、ひろしま未来協創センター長、副学長を務め、2022年4月より学長就任。



国際コミュニティ学部長
さど のりこ

佐渡 紀子

広島県出身。大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了。博士(国際公共政策)。専門は国際政治、平和学。学習支援センター長を務め、2022年4月より国際コミュニティ学部長就任。

復興をリードする人材の育成へ。
「広島」を冠して誕生した大学

矢野 2025年は、第二次世界大戦終戦、そして広島への原子爆弾投下から80年という節目の年です。今回は、学生の立場から平和に関わる活動・研究に取り組む河内さんと近藤さん、平和学について研究されている佐渡国際コミュニティ学部長にお集まりいただきました。皆さんと語り合えることを楽しみにしていました。どうぞよろしくお願いします。

本学は、原爆被害からの復興の中で、広島経済成長を率いる人材の育成という社会からの要請を受け、誕生しました。さて、ここでクイズです。本学の前身は1952年に開学した修道短期大学です。その後、四年制の単科大学として広島商科大学が開学しましたが、「修道大学」などの案がでていた中、「広島修道大学」と校名が決まりました。なぜ「広島」という地名を校名に加えたと思われますか？

近藤 広島をけん引していくという覚悟や意志の表れでしょうか？

矢野 その通りです。世界で初めて原爆が投下された都市として、平和への思いを広く発信し続けるため、国際性が求められた時代背景のもと、大学名に「広島」を冠することになったと聞いています。

佐渡 そうした事情があったのですね。学生のお二人は本学で学びながら、平和に関連したさまざまな活動・研究を行っていると言いました。今日は、それぞれのお話を伺いたいと思います。



▲ 広島商科大学観音校舎(1970年代)

広島復興を描いた展示を通じて、
多くの人々と対話を重ねる

佐渡 河内さんは学外で行われている展示会「Pride of Hiroshima展」のアテンドスタッフとして活躍されたそうですね。

河内 「Pride of Hiroshima展」は、G7広島サミットに合わせて開催された期間展示のコンセプトを継承した常設展です。多くの企業に残る資料をもとに、広島復興の歩みをクリエイターによる演出で紹介しています。その中で私は、国内外から来場された方々に向けて展示内容を解説しました。原爆関連の展示は被害の悲惨さを伝えるものが多いですが、本展示は広島復興や成長に焦点を当てている点が特徴です。「これからも頑張ろう」という前向きなエネルギーを感じてもらえる内容になっています。

矢野 実際に展示を見て、とても素晴らしい企画だと感じました。広島復興に向けて人々がどれほど努力してきたのかは、私もずっと発信したいと思っていたテーマ

です。なかなか手を付けられていなかったのですが、まさに自分のやりたかったことがこの展示に凝縮されていました。

佐渡 河内さんは、どうしてアテンドスタッフとして企画に参加しようと思ったのですか？

河内 大学入学後に「被爆体験の継承者が減っている」という話を聞き、強い危機感を覚えました。平和について発信できる人を、もっと増やせたらと思ったのがきっかけです。また、私は卒業後、広島市内の中学校の教員になりたいと考えています。生徒たちに平和の大切さを伝えていくうえで、自分自身もあらためて学びを深める必要があると思いました。

矢野 そういった想いが行動の原動力になっているのですね。素晴らしいことです。活動を通じて、どのような点にやりがいを感じていますか？

河内 この展示は「対話」が軸になっています。そのため、意見を一方的に押し付けるのではなく、相手の話を受け止めながら自分の考えを伝えるようにしています。海外の方とは英語でやりとりをするのですが、日常生



▲「Pride of Hiroshima展」でのアテンドの様子
(河内さん：写真右)

活では使わない難しい英語などはインターネットで検索したり、ジェスチャーを交えたりして、意思疎通を図っています。このように、多くの人々と対話を重ね、新たな気づきを得られることが大きなやりがいですね。展示内容への理解を深める中で、今の広島があるのは、復興を支えてきた人々のおかげであると実感しました。だからこそ、私たちが次世代を担う存在としてもっと努力しなければなりません。

佐渡 とても心強い言葉ですね。広島未来を支えていきたいという前向きな姿勢は、まさに展示のメッセージとも重なります。

矢野 戦後間もない時期、広島修道大学の学生たちも同じ気持ちだったことでしょう。商学を学び、経済や金融を通じて広島復興を率いていこうという使命感があったはずです。その志が受け継がれていることを、とてもうれしく思います。





正しい平和教育の在り方とは。 地域ごとの被害を知り、「自分ごと」に

佐渡 近藤さんは平和教育をテーマに卒業研究をされているそうですね。具体的にどのような内容なのでしょうか？

近藤 私は「平和教育の地域差」について研究しています。広島出身ということもあり、もともと平和教育に関心がありました。高校時代に県外の友人ができたのですが、「8月6日が何の日か分からない」「興味がない」といった反応の人が多く、驚きました。調べていくうちに、広島ほど平和教育が重視されていない県もあることが分かりました。また、平和教育というと広島・長崎の原爆や沖縄の地上戦などの話が中心になりがちですが、他の地域でも空襲などの被害があったはずですが、そのような出来事があまり取り上げられていない現状に疑問を持ち、平和教育の在り方について考えようと思い、このテーマを選びました。

佐渡 「全国で広島のことを学ぶべき」というのではなく、自分が住んでいる地域の戦災について学ぶことも立派な平和教育ではないか、そんな問いから出発しているのですね。ただ、何を学ぶべきかは人によって意見が異なりますよね。

近藤 おっしゃる通りです。インタビューを通じて情報を集めているのですが、平和教育についてしっかり意見を持っている人もいれば、関心が薄くて話が進まないこともあります。

矢野 難しいけれど、非常に興味深いテーマだと感じます。私自身、広島生まれ広島育ちで、被爆二世でもありま

す。幼い頃から平和教育を受けて育ちましたが、近藤さんのお話を聞いて、平和教育と原爆の実相を知ることとは必ずしもイコールではないと気づかされました。私たち広島に縁のある人間にとって原爆のことを知り、伝えていくことは大きな使命ですが、平和とは核兵器の問題を超えた広い概念です。全国、全世界で自分たちの生きる地域でどんな被害があったのかを知る平和学習の機会があることによって、自分ごととして平和を考えるきっかけが生まれるように思います。

佐渡 広島での平和教育は原爆に特化してきたからこそ、地元で育った若い世代が「他の視点はないのか」と疑問を持つ。そこから新たな研究が生まれるのは意義深いですね。広島には平和に関心を持つ研究者が県外や海外からも集まってきます。本学も広島にある大学として、そうした人々をしっかり支えていきたいと思っています。

矢野 ところで佐渡先生は、どうして平和学の研究を志されたのですか？

佐渡 私は本学の法学部国際政治学科の卒業生で、ちょうど冷戦が終わった直後の時代に大学生活を送りました。当時から「どうすれば戦争がなくなるのか」に興味があり、研究の道に進みました。他の研究者からは、「広島出身だから平和に関心を持っているのですね」とよく言われます。確かに、広島で育ったことが自然とそのテーマについて考える土壌になっていたのだと思います。だからこそ河内さんや近藤さんのように、学生のうちから平和に関心を持って活動や研究に取り組む姿を目の当たりにすると、平和への思いが引き継がれているようで本当にうれしく感じます。

平和について話し合い、繋がれる場を提供。 行動する学生を後押しし、共に歩む

佐渡 平和のバトンを未来に繋いでいくために、学生のお二人は同世代の若者にどのようなことを期待しますか？

河内 追悼・慰霊行事などの活動に参加してほしいですね。私は大学1年生から8月6日に行われる「とうろう流し」のボランティアに参加しており、この経験が平和について学びを深めるきっかけになりました。活動を通じて、少しずつ関心が芽生えるのではないのでしょうか。

近藤 河内さんの話と同じく、まずは興味を持つことが大切です。8月6日にはテレビや新聞などで特集が組まれるので、それを一度は見てほしいですね。また、私が平和教育について真剣に考えるようになったきっかけは、大学2年生の時に受けた「ヒロシマ文化論I・II」という授業でした。平和記念公園が原爆投下前にどのような街だったのかを知り、視野が広がりました。こうした学びの場がもっと増えてほしいと思います。

矢野 海外の方から「原爆を落とされたのが公園でよかったですね」と言われることがあります。あの場所にかつてにぎわいのある街があったという事実は、広島に住んでいても意外と知られていないように感じますね。

佐渡 広島は今、二つのメッセージを国際社会に発信する都市になりつつあります。一つは世界で初めて原爆が投下された場所。もう一つは、そこから見事に復興した都市であることです。戦争で傷ついた人々が広島を見て「自分たちの街もきっと再生できる」と希望を抱く。そんな存在になっているのではないのでしょうか。「Pride of Hiroshima展」のように復興の歩みに光を当てる取り組みは、広島役割をより強く示すものだと思います。

最後に、平和のバトンを繋いでいくために、広島修道大学としてどのようなことができると学長はお考えですか？

矢野 今日の皆さんの話を聞いて、多様な人々が集まる総合大学としての強みを生かし、平和について議論できる環境を充実させたいと改めて感じました。近藤さんが言ってくれたように、まずは興味を持ってもらうためのきっかけづくりに注力する必要があります。授業や講演会など、大学だからこそ提供できる学びの場を増やしていきたいですね。また、学生同士が自由に意見を

交換できる空間づくりも大切だと考えています。

佐渡 平和に関心のある学生たちがキャンパスの中で繋がりを、その可能性を存分に発揮できる環境を整えていきたいですね。

矢野 今日こうしてお二人が出会ったのも、一つのご縁。ぜひ今後も交流を深め、一緒に活動できるような関係が生まれれば素晴らしいですね。本学としても、行動する学生の皆さんを全力で応援する大学であり続けたいと思います。今日はありがとうございました。



未来への探求

民主主義の危機に対し、

熟議民主主義で解決策を探る。

国際コミュニティ学部 准教授

こすだ しょう
小須田 翔

早稲田大学大学院 政治学研究科
博士課程単位取得満期退学
修士(政治学)

専門分野

政治学

主要研究テーマ

政治理論、政治哲学、民主主義論、熟議民主主義論

民主主義の危機という 事態にどう対応するか？

私は現代政治理論、特に規範的政治理論を専門として研究しています。この分野は、政治に関わる概念を分析し、あるべき政治の姿を問う学問領域です。私の主な関心は民主主義にあります。民主主義は現在、危機に陥っていると言われています。欧米諸国でのポピュリズム*1の台頭、政治リーダーによって民主的な制度が破壊されてしまう「権威主義の台頭」、AIやSNSなどの発展による民主主義の混乱などをしています。

こうした「民主主義の危機」に対して私が注目しているのは、「熟議民主主義」という考え方です。熟議民主主義とは、投票ではなく対話を重視する民主主義の理論です。アメリカの哲学者であるジョン・デューイは、熟議民主主義の特徴を次のように表現しています。「民主主義で大切なことは、多数派がどのように投票したのかという事実よりも、多数派がどのように多数派になったのかである」。つまり、最終的には多数決で決定するとしても、その前にいろいろな人の考えを聞いて皆でよく考えてから決めようということです。この熟議民主主義は、実際の政治にも大きな変化をもたらしてきました。例えば、日

本を含む世界各地で、公共的問題について人々が実際に集まり、話し合いを通じて決定する熟議民主主義の実践が広がっています。

民主主義の深化と 未来世代の包摂

私は次の二点に関する研究を進めてきました。一つ目は、熟議に参加する人々は、社会の複雑な問題に対して十分に理解した上で決断を下すことができているのか、もしくは、平等に話し合うことができているのかといった問題です。そこで、ミニ・パブリックスと呼ばれる小規模な熟議の場

に関する先行研究を分析した結果、参加者が政治的知識を深めていることや、自らの意見を修正していることがわかりました。他方で、参加者の属性に偏りがある場合もありました。これは、規範理論*2が想定する平等な話し合いという価値が十分に実現していない可能性を示しています。とはいえ、こうした偏りは、話し合いの場の設計や進行方法などの工夫で改善の余地があると考えています。

二つ目は、民主主義という決定方法が未来の人々とどう関わっているのかという課題です。民主主義の決定は、遠い未来に生きる人々に対して深刻な影響を及ぼしますが、話し合いに参加するのは現在に存在する人々だけです。「自分たちのことを自分たちで決める」という民主主義の理念からすると、ここには大きな問題があります。これに対し、熟議民主主義へと改革すれば、未来世代の利害関心を取り込んだ決定に近づくことができると考えられています。私は、熟議における「理由の提示」という特徴が、未来の人々への責任を果たすための一つの手がかりになるという仮説のもと、研究を進めています。

私が一貫して考えているのは、「大規模で複雑な社会において、人々が自分たちのことを自分たちで決めることはどのようにして可能なのか」という問いです。これは、「民主主義の危機」が叫ばれている社会において、避けて通れない問いです。今後も、この問いを解き明かすべく研究を進めていきます。

詳しくはこちら▶



*1 政治エリートや制度を批判し、普通の市民の意志を直接政治に反映するべきと主張する政治運動。

*2 規範的政治理論のこと。ここでは熟議民主主義の望ましいあり方に関する理論をさす。

[左写真の書籍]

田中愛治 編『熟議の効用、熟慮の効果』/ 勁草書房

田村哲樹 著『熟議の理由』/ 勁草書房

“自分たちのことを自分たちで
決める社会の実現に近づくために”

修大人の飛翔

活躍する卒業生 GRADUATES MESSAGE Vol.54

世界を知った学生時代

高校時代、漠然と雑誌や新聞をつくる仕事に憧れていました。また、「できるだけ広い世界を経験してほしい」という母の思いがあり、幼い頃から外国人留学生が自宅に宿泊するなど異文化交流の機会も多く、自然と国際交流にも関心を抱いていました。そういった影響から、政治と国際社会のことについて学べる点に惹かれ、国際政治学科へ進学しました。

大学時代を振り返って最も鮮明に覚えているのは、2年生の時に参加した6週間のニュージーランド研修プログラムです。何もかもが初めての経験で、刺激的な時間でした。人とのコミュニケーションは苦手ではないのですが、ホームステイ先のパーティーでは、自分だけが外国人というのが初めての経験で、英語も得意ではなかったため、その場にいるのがつらいと感じることもありました。しかし、この経験がその後の人生に役立っていると実感しています。また、現代のようにインターネットで容易に情報が得られない時代に海外に滞在し、現地の生活を肌で感じながらその国の文化を深く学べたことは、大変貴重な経験だったと考えています。

夢の実現をめざして

私の就職活動は、有効求人倍率が1を切るほどの就職氷河期真っ只中でした。しかし、「雑誌を作る仕事以外の自分は想像できない」という若気の至りともいえる強い思いがあり、大学時代に身につけた未知に飛び込む力を生かし、大学卒業後は専門学校へ進学。その後、現在の会社に入社しました。

現在はグラフィックデザイナーとして、デザインやアートディレクションの仕事に携わっています。過去には、広島修道大学の「イノベーション・ブリッジによるひろしま未来協創プロジェクト(ひろみらプロジェクト)*」のデザイン

や公式マスコットキャラクター「しゅうまる」のデザインも手掛けました。最近は、さまざまな県の観光の仕事に携わることが増えてきました。また、絵本の企画やデザインも手掛けています。

デザインの仕事

グラフィックデザイナーの仕事では、毎回異なる課題が与えられ、デザインを通してそれを解決するという仕事柄、今でも常に試行錯誤しています。特に若い頃は技術や経験が足りず、一つのをを作り上げるのが今の何倍も大変で、日々満身創痍でした。

「しゅうまる」に関しては、偶然、母校である広島修道大学の公式キャラクターをデザインできる機会が訪れ、卒業生としてぜひ担当したいという気持ちと、自分以外の案が採用されたら悔しいという思いが強く、特別な気合いが入りました。私がアートディレクターとしてコンセプトや方向性をとりまとめ、社内のイラストレーターが描き、チームでアイデアを形作っていったのですが、自分たちの案が公式マスコットキャラクターに決まると連絡を受けたときは嬉しかったです。「しゅうまる」のポイントは、やはり大学のシンボルマーク(道マーク)から派生した耳の形です。クマのキャラクターは数多く存在しますが、その中でも個性的なクマになったのではないかと思います。

大学時代の経験が生きる

通常のデザイン会社と比べ、当社は海外との取引も多く、近年はブルガリアやオーストリアなどへ出張で訪れました。大学時代の留学経験は、自分の知らない世界が数多くあることを教えてくれ、海外取引の際に役立っています。また、英語でのコミュニケーションに対する自分のハードルを下げるきっかけにもなりました。

この仕事の根幹はコミュニケーションだと

感じています。大学時代の学びやサークル活動といった毎日の学校生活、そして海外留学などを通して得た大切な仲間との日々や経験が、私の視野を広げてくれました。これらの経験が現在の仕事におけるコミュニケーションに生きていると実感しています。

未体験のことに挑戦してみる

未体験なことには、いくつになっても怖さを感じます。しかし、挑戦した時には必ず何かを得られると考えています。日々の仕事においても、ルーティンや自分の想像の範囲でこなすと楽なことでも、新しい方法を試してみる。そうした積み重ねが、自分自身を形作っていくのではないのでしょうか。

学生の皆さんは、もし何か心が動くことがあるのなら、無理そうなことでも頭でっかちにならず、まずは挑戦してみてください。その時に頭や体や心を使えば使うほど、充実感を得られるはずですし、自分の大きな財産になるのではないかと思います。やってみたら意外と簡単かもしれません。

*2013年～2017年に文部科学省「地(知)の拠点整備事業」として採択。地域、自治体、経済界、NPO等の各団体と協働し、大学全体の事業として教育、研究、社会貢献の3領域を好循環させながら、「地域イノベーション人材」を輩出し、地域の持続化に寄与した。

私のターニングポイント

私のターニングポイントは、社長との出会いです。当時、専門学校の講師をされていた社長に雑誌編集部のアルバイトを紹介してもらい、学校に通いながら実際の現場を経験することができました。その後、専門学校卒業前に会社に入れてほしいとお願いし、今に至ります。



2024年仕事で訪れたオーストリア インブрукにて
(本人:写真中央 社長:写真左)

詳しくはこちら



デザインを通じて、
世界とつながる。



有限会社 IC4DESIGN

グラフィックデザイナー

すぎ よう こ

杉 葉子 さん

法学部国際政治学科*

1998年3月卒業

*現在の国際コミュニティ学部国際政治学科

修大人

在学生
紹介
Vol.62

井手 悠斗 さん

経済科学研究科 経済情報専攻
博士前期課程 1 年
広島市立広島商業高校出身

学部生時代に培ったSAでの経験を生かし、大学院進学後はTAとして活動。

TA・SAの活動について

TA(ティーチング・アシスタント)・SA(スチューデント・アシスタント)は、どちらも授業や演習などの教育活動を支援する役割を担っています。主な活動内容としては、受講生からの質問対応、提出物等の整理、授業運営のサポートなどがあります。ただし、両者には担当役割の深さや内容に明確な違いがあります。TAは大学院生が対象で、より専門的な知識を生かして教育的支援を行います。具体的には、学修相談や履修相談、卒業論文に関する補助など、受講生の学びをより深くサポートする役割が求められます。一方、SAは主に学部生が担当し、授業運営や基礎的な学修支援といった補助的な業務を担います。

自身の経験を生かし、TA・SAに挑戦

私がTA・SAに挑戦しようと思ったきっかけは、自分がこれまで学んできたことを、後輩や先生方のために役立てたいと感じたからです。自分自身が学ぶ中で苦労した経験があったからこそ、同じように悩んでいる後輩の気持ちに寄り添いながらサポートできるのではないかと考えました。また、人に何かを教える立場になり、相手に分かりやすく伝えるためには、自分自身の理解も深める必要があることから、指導を通じて自分の成長にもつながる点に魅力を感じました。さらに、授業運営の補助をすることで教員側の視点に立つ機会もできます。これまで受ける側だった授業がどのように設計・準備されているのかを知ることができる点にも興味を持ちました。

SAからTAへのステップアップ

学部生の時に、SAを経験したことで、現在TAとして活動するうえで大切にしている姿勢が身についたと感じています。SAでは、大人数授業でのグループワークの補助を担当しました。その際に、受講生が相談しやすい環境をつくるには、まず自分から歩み寄る姿勢が重要だと学びました。現在TAとして卒業論文の指導補助を担当していますが、SAでの経験を生かし、まずは自分から積極的に声をかけ、

信頼関係を築くことを心がけています。SAで得た良好な対人関係を築く力が、TAとしての後輩に対するより深いサポートにつながっていると感じています。

「助かりました」のひとつがモチベーションに

TA・SAの活動で最もやりがいを感じるのは、受講生の困りごとを解決でき、安心したような表情や笑顔を見ることができた瞬間です。自分の説明やサポートによって理解が深まり、「分かりました」「助かりました」といった言葉をもらえたときには、少しでも受講生の学びに貢献できたという実感が得られ、大きな達成感を感じます。そうした経験が、次も頑張ろうというモチベーションにもつながっています。

修大生へのメッセージ

学生時代は失敗を恐れずに挑戦できる、人生の中でも特に自由で恵まれた時間です。最初はうまくいかないこともあるかもしれませんが、その経験が自分を成長させ、視野を広げてくれるはずです。私自身、TA・SAとしての活動を通じて、自分なりの強みや自信を築くことができました。そして何より、私自身がたくさんの教職員の方々に支えていただき、ここまで来ることができたように、広島修道大学には、困ったときに相談できる環境と支えてくれる方々がそろっています。だからこそ、自分の可能性を信じて、興味のあることには積極的にチャレンジしてみてください。その挑戦の積み重ねが、きっと自分らしさや将来の力につながるはずです。無理なく、時に無茶しつつ、どうか全力で！応援しています。



海外留学記

From
ベトナム



LE HOANG NGOC CHAU さん

出身大学：ベトナム国家大学ホーチミン市
人文社会科学大学（ベトナム）



ベトナム社会主義共和国



2025年4月～2026年1月

本号では、本学が受け入れている留学生を紹介します。

Q.1 広島修道大学への留学を決めた理由は？

子どものころから日本のアニメやマンガが好きで、次第に日本の文化や言語にも興味を持つようになりました。大学に入学して日本語の勉強を始め、日本についていろいろなことを学びました。しかし、実際に日本人と話す機会があまりなかったため、日本で実際に生活してみたいと思うようになり、留学を決意しました。

日本の大学との交換留学プログラムは他にもありましたが、その中でも広島修道大学を選んだ理由は、広島修道大学に留学した先輩たちからとても良い評価を聞いたからです。先輩は、先生方が親切で熱心に指導してくださることや、キャンパスの環境が整っていて勉強に集中しやすいことを教えてくれました。



「とうかさん」浴衣ファッションショー ▲

Q.2 実際に留学して感じた「広島修道大学の魅力」は？

広島修道大学の最大の魅力は、国際交流の機会だと思います。授業の中でも、留学生と日本人学生と一緒にディスカッションしたり、グループワークに取り組んだりすることが多く、自然に友達ができ、積極的に意見を交わすことができました。

また、国際交流イベントや言語交換のプログラムも豊富で、私はCafeという交流スペースで、日本人学生と日常会話を楽しんだり、お互いの国の文化や習慣を紹介し合ったりしています。こうした活動を通じて語学力だけでなく、異文化理解力やコミュニケーション力も大きく成長したと実感しています。

Q.3 留学中、最も印象に残っていることは？

留学中に最も印象に残っていることは、友人と一緒に「とうかさん」で浴衣ファッションショーに参加したこと。とうかさんは広島で開催される夏のお祭りで、多くの人が浴衣を着て街に集まります。

私はその中のイベントである浴衣ファッションショーに出演することになり、初めて日本の伝統的な衣装である浴衣を着ました。最初はうまく歩けるか心配で緊張しましたが、友人と一緒に楽しく参加することができ、とても思い出に残る体験になりました。日本の文化を実際に体験できた、特別な経験です。

Q.4 留学中に挑戦したいことは？

留学中に挑戦したいことは、日本語能力試験の一番難しいレベルN1の合格と、日本語でのプレゼンテーションの練習です。将来通訳者になるためには、日本語能力試験N1レベルの語学力が必要なので、しっかり勉強して合格をめざしたいです。また、人前で日本語を使って話す力を伸ばすために、授業やイベントなどで積極的に発表する機会を増やしたいと思っています。留学生活を通して、自分の限界に挑戦し、もっと成長できるように頑張ります。

Q.5 将来の夢は？

将来の夢は、通訳者になることです。通訳者は、ただ言葉を翻訳するだけでなく、その人の気持ちや文化の背景も理解して伝えることが大切だと考えています。だから、正確な言葉遣いや表現力を身につけるだけでなく、相手の気持ちに寄り添うコミュニケーション能力も高めたいです。日本での留学生活を通じて、言葉だけでなく文化や習慣の違いを深く学んでいます。これからも通訳の勉強を続け、専門的な知識や技術を身につけていきたいです。将来的には、通訳者として活躍しながら、日本とベトナムの間の交流や理解を深める懸け橋のような存在になりたいです。

日本とベトナムの懸け橋になるため、自分の限界に挑戦。

The University of Social Sciences and Humanities Vietnam National University - Ho Chi Minh City



INTERVIEW

学長賞 受賞
団体

軟式庭球部
計6名

第46回中国学生ソフトテニスリーグ戦大会(2024年5月1日~5月3日)において5位入賞し、全国大会の出場権を獲得。第78回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会(2024年9月14日~9月15日)に2回戦から出場し、2回戦突破。

第36回(2024年度)学長賞(団体)を受賞した軟式庭球部の部長の鳥越さんに
学生広報スタッフがインタビューしました！

Interviewee

とりこえ りょうた
鳥越 亮太 さん
商学部
経営学科 3年



Interviewer

きど あい
木戸 愛 さん
健康科学部
心理学科 3年



木戸 2024年度の学長賞受賞、おめでとうございます！受賞された時の気持ちをお聞かせください。

鳥越 実は、2023年度に「学長奨励賞」を受賞していて、「もう一つの賞を取ろう」という意気込みで今年1年間頑張ったので、学長賞を受賞した時は本当に嬉しい気持ちでいっぱいでした。

木戸 2023年度と比べて2024年度はどのようなことを頑張ったのでしょうか？

鳥越 2025年3月に卒業された平野先輩は、学長賞(個人)を受賞した軟式庭球部のエースでした。その方に追いつけるようにみんなで必死に練習を頑張りました。その結果が大会の結果として出せたのかなと思います。

木戸 全国大会の出場権を獲得された時の気持ちをお聞かせください。

鳥越 リーグ戦で5位に入賞して選手権の全国大会への出場権を得ましたが、2位以内であれば、さらに全日本大学ソフトテニス王座決定戦への出場権が得られることもあり、最初は2位以内をめざしていました。5位に終わり悔しさもありましたが、すぐに次の選手権に向けて切り替えて練習を始めました。

木戸 部長として心掛けていたことなどはありますか？

鳥越 限られた時間でいかに能率的な練習ができるかを常に意識していました。また、自分が落ち込んだ雰囲気を出してしまうと、その空気がチーム内に伝わってしまうので、負けたりミスをしたとしても、ポジティブな立ち振る舞いや言動をするように心掛けていました。

木戸 印象に残っている試合やプレーを教えてください。

鳥越 インターカレッジの大会です。^{せんめつせん} 激減戦という試合形式で、2本先取して「これは勝てる」と思っていたのですが、最後の1本が取れず、3本とられ逆転負けした時はかなり悔しかったです。その結果、全国ベスト8に届かなかったのが、なおさらでした。

でも、悔しさもありながら「自分たちの実力はベスト8までそこまで遠いものじゃない」と感じることができたので、また頑張ろうと思えました。

木戸 学業とスポーツの両立で大変だったことを教えてください。

鳥越 本業である学業が疎かにならないように、試験期間前はチームの練習は行わず、勉強に集中するようにしていましたし、試験期間中は気軽に休めるような制度にしていました。

木戸 鳥越さんの思う「軟式庭球の魅力」とはいったいなんでしょう？

鳥越 軟式(ソフト)テニスは硬式テニスと違って、ゴム製のボールを扱います。風などの気候条件でボールの動きが大きく変化するため、試合の戦術に影響する点が魅力の一つだと思います。また、ダブルスで試合を行うのが基本なので、ペアで丸となって勝利をめざしていくという醍醐味ですね。

木戸 今後の目標を教えてください。

鳥越 目標は、全国団体にベスト8に入ることです！また、個人戦でも、一つでも多く勝ちたいです。

木戸 ありがとうございました。今後の軟式庭球部のご活躍を応援しています！

鳥越 ありがとうございました！



▲軟式庭球部の仲間たち

Shudo × SDGs



広島修道大学は、SDGs を目標とするのではなく、一つの手段としてその先につながっていく私たちの「望ましい未来」へアプローチしていきます。

地域食材を使用したレシピの開発



健康科学部健康栄養学科の学生の有志が「ひろしま地域食材PR事業」の一環として広島県の地域食材である小松菜等の「ひろしまそだち」農産物を使用したレシピを33品開発し、さらに地産地消レシピのレシピカードを作成しました。

ひろしま地域食材PR事業とは、ひろしま地産地消推進協議会が行う事業であり、管理栄養士、栄養士、調理師等をめざす大学生等が県産農林水産物の食材としての価値を高め、県民に広くPRすることにより地産地消の推進を図る取り組みです。

2024年11月26日には、広島市安佐南区沼田町の「ルンビニ農園」を訪問し、「小松菜の購買をめぐる首都圏と広島圏の消費動向の違い」、「農産物の生産と流通を通しての地域活性化」をテーマにお話を伺い、地産地消の仕組みを学びました。また、生産者のお話から、小松菜の旬は12月から年末の寒い時期であり、酸味と糖度のバランスが大切であることや、小松菜の酸味や甘味は時期によって

異なり、最も甘い時期は2月であり、この甘い時期の小松菜はスムージーに向いているとの説明を受けました。小松菜のおいしさのバランスの違いを生かしたレシピを考えることは新鮮であり、大変勉強になったようです。

訪問を通じて、学生たちは、安心安全な野菜を育てることは難しく、そのためにさまざまな対策や工夫が行われていることを知る機会となりました。さらに、小松菜の流通や出荷に関する知識も学ぶことができました。

学生たちは、訪問で学んだことを生かし、「時間をかけずに手軽につくれること」、「幅広い年代の方に食べていただけること」、「一人分の栄養価が一目でわかること」をコンセプトに、広島近郊7大葉物野菜(小松菜、サラダ水菜、春菊、ほうれん草、パセリ、青ねぎ、広島菜)を使用したレシピを作成しました。さらに、料理に含まれる栄養素や調理にかかる所要時間が一目でわかるレシピカードも作成しました。管理栄養士をめざす学生にとって貴重な体験になりました。

秋におすすめレシピ レシピカード

ワンポイント説明

料理に含まれる栄養素

料理にかかる所要時間

他のレシピはコチラ

小松菜の彩りスープ

野菜の旨味がたっぷりの中華スープです。煮るだけで簡単なので、忙しい時にもおすすめです。

116mg 116mg

1人分の栄養価
エネルギー: 94 kcal
塩分: 1.3g
炭水化物: 5.8g

【所要時間】20分

材料(2人分)

・ 卵	2個	・ 塩	小さじ1/4
・ 小松菜	100g (1/2株)	・ しょうゆ	6g (小さじ1)
・ 人参	50g (1/3本)	・ 鶏がらスープの素	2.5g (小さじ1)
・ 片栗粉	5g (小さじ1/2)	・ 水	400ml
・ 水	15g (小さじ1)		

作り方

①小松菜は根元を切り落とし、3cm幅に切る。にんじんは短冊切りにする。ポウルに卵を割り入れて混ぜる。

②鍋ににんじん、塩、しょうゆ、鶏がらスープの素、水を入れて中火で1分程煮立たせる。

③小松菜を加えて再び1分程煮立たせ、水溶き片栗粉を加えてとろみがつくまで混ぜながら煮る。

④溶き卵をまわし入れてゆっくりと混ぜる。



▲ルンビニ農園での見学



▲試作の様子



2024年度学長表彰等表彰式および 2025年度成績優秀奨学生等奨学金 採用証書授与式を開催(6/4)

2024年度学長表彰・資格取得学生表彰式、2025年度成績優秀奨学生・留学生教職員給付奨学金・上領英之奨学金・アーネスト奨学金採用証書授与式を執り行い、約250名の学生および教職員が出席。学業や課外活動において、自ら目標を立てて努力し、優秀な成績を残した表彰者へ、矢野泉学長より表彰状が授与され、各表彰・採用奨学生の代表13名が、家族や友人、教職員への感謝や、これからの目標達成に向かう意気込みを述べた。



Culture Jam2025を開催 (6/28・29)

6月28日・29日の2日間、Culture Jam2025を開催。今年度のテーマは“彩〜いろどり〜”。メイン会場である修大講堂大ホールでは、文化局サークルが集い、バンド演奏やダンス、ジャグリングや公開ラジオ形式の対談パフォーマンス、ピンゴ大会などが行われた。また、修大講堂ロビーでは、美術部の絵画や書道部の作品、まんが愛好会の作品など、学生の熱のこもった作品が会場に並べられ、活気に溢れた。



地域つながるプロジェクト2025が 採択され活動開始 (6/4)

本学の学生が、地域の方々とともに地域課題を解決する活動の企画・実施や調査・研究を行う「地域つながるプロジェクト」において、課題自由型8件、課題設定型5件の計13件が採択され、各活動を開始した。

■課題自由型*1

No.	プロジェクト名	担当教職員 (所属学部)
1	今日から僕らは五月っ子!?	川瀬 正樹 (商学部)
2	フラワーコミュニティタウン育成計画in安佐南区	世良 和美 (商学部)
3	ここが好き! 安芸高田	山崎 敦俊 (商学部)
4	敵島の守人-継承、先人が遺した伝統-	石田 崇 (人文学部)
5	とっておき、宮島。	山川 肖美 (人文学部)
6	安芸太田に来てみんさい!!	森河 亮 (法学部)
7	三次を多幸に!	澤 俊晴 (国際コミュニティ学部)
8	尾道泊まれる商店街プロジェクト	広本 政幸 (国際コミュニティ学部)

■課題設定型*2

No.	プロジェクト名	担当教職員 (所属学部)
1	みんなで楽しくからだを動かそう!	河口 和也 (人文学部)
2	三良坂に未来を	三隅 貴史 (人文学部)
3	動物園の観光資源としての再評価を通じた入園者数増加策の検討	森河 亮 (法学部)
4	廿日市スタイル「ぶちかつ!はつかいち」	広本 政幸 (国際コミュニティ学部)
5	子どもと学ぶ食生活デザインプロジェクト	小須田 翔 (国際コミュニティ学部)

*1 学生が、活動したい地域及び連携先を探し、その地域の課題に取り組む活動。

*2 地域団体から提示された課題に学生が取り組む活動。

オープンキャンパスを開催 (7/19・20)

7月に第1回・第2回オープンキャンパスを開催。各教室では教員による学科説明や展示のほか、模擬講義や入試対策などのプログラムを実施。学部別・在学生相談などの個別相談ブースでは、入学後の学びや学生生活のことなどの疑問に教員や在学生が答えた。学生スタッフShuddy's (現役修大生) によるキャンパスツアーも多くの方に好評を博した。吹奏楽団の演奏、混声合唱団による歌のパフォーマンスやダンスなどもあり、さまざまなプログラムを通して本学の魅力を体験していただいた。



公式マスコットキャラクター「しゅうまる」 初イベント「しゅうまるさんぽ」を開催(6/5)

本学公式マスコットキャラクター「しゅうまる」を学生・教職員にむけてお披露目するためのイベント「しゅうまるさんぽ」を開催。協創館前に「しゅうまる」が登場し、多くの学生や教職員との交流や記念撮影を行い、イベントは大いに盛り上がった。



業界・企業・仕事を知る!スペシャル トークセッションを開催(6/24〜7/10)

地場大手企業・団体が登壇し、企業説明とパネルディスカッションの2部構成で開催。学生の企業理解の促進と職業選択の視野を広げることを目的としたこのイベントに延べ500名ほどの学生が参加した。



修道力フォーラムを実施 (8/1)

「本学の特色ある取り組み」をテーマに、2025年度第1回FD・SD研修会「修道力フォーラム」を実施。各学部の特色のある取り組みについて各学部長が発表した。



ムハマディヤ大学ジョグジャカルタ校 での調印式に学長ら出席(6/18)

2025年2月に新たに交流協定を締結した、ムハマディヤ大学ジョグジャカルタ校(インドネシア)にて本学との交換留学に関する新たな協定書の調印式に矢野泉学長、JAMES Daniel国際センター長が出席。本学の紹介や協定書への署名などが行われた。



後援会主催 学生応援企画「100円朝食 キャンペーン」好評につき延長(〜1/27)

後援会が主催し、4月から始まった「100円朝食キャンペーン」が、好評につき2026年1月27日(授業日のみ)まで期間を延長して実施。学生食堂の「フォレスト」「アルカディア」「マリオターヴォラ」が対象。



第2回一人暮らしの料理教室を 開催(6/27)

一人暮らしを始めた新入生を対象とした「第2回一人暮らしの料理教室」を開催し、新入生12名が参加。講師は、健康栄養学科の嶋田さおり教授が務め、栄養バランスを考慮し、少ない調理器具でも簡単に作ることができるメニューを紹介。新入生は協力して料理に挑戦した。



同窓会より新体育館建設事業 への寄附(7/17)

本学同窓会から新体育館建設事業への寄附を受け、寄附金目録贈呈式を実施した。贈呈式では、松井同窓会長より矢野学長へ目録が手渡され、学長が謝辞を述べた。



平和関連科目で他大学との 単位互換制度を開始(9/22〜)

法学研究科国際政治学専攻では、2025年度後期授業より平和に関する科目の単位互換制度を広島大学大学院 人間社会科学 研究科国際平和共生プログラムと広島市立大学大学院 平和学研究科平和学専攻と連携して実施。



学長杯水泳競技大会 「修大チャレンジカップ」を開催(8/2)

第21回広島修道大学学長杯水泳競技大会「修大チャレンジカップ」を開催。県内10高校が参加し、本学水泳部とあわせて総勢92名が、24種目の競技に挑んだ。(写真は最優秀選手賞を獲得した五明章太郎さんと沼田高校の皆さん)

INFORMATION

刊行物紹介

『消費経済学 日本消費経済学会創立50周年記念集 第1巻』

【執筆等教員】 柏木 信一(商学部) 関谷喜三郎,宮阪雅幸,安田武彦編著 五紘舎 2025年4月 248ページ 2,750円(税込)

消費経済学は、従来の経済学や企業サイドからの消費者行動論と何が違うのか。この点は柏木執筆の第7章において、①体系化する際に何が求められるのか、②単なる支出論や利潤実現目的のための消費論ではなく、消費生活を起点とした「消費生活の学(=消費者学)」として理論構築すべき旨を問題提起した。これと併せて、他の章で、近年の消費動向や新たな消費様式についても展開した。



『ひろしま地歴ウォーク3 写真でみる昭和50年代』

【執筆等教員】 川瀬 正樹(商学部) ひろしま地歴ウォーク編集委員会編著 レタープレス 2025年3月 84ページ 1,200円(税込)

「地歴ウォーク」は、「この本を片手に街に出よう」というコンセプトで編集された、まち歩きガイドブックのシリーズである。「ひろしま地歴ウォーク3」は、山陽新幹線の開業やカーブの初優勝など、広島が大きく変わった昭和50年代と現在の写真を比較しながら、その変化を解説している。空から地表を撮影した空中写真の新旧比較も多数盛り込まれている。この本を持って現地に行き、その地の昔の様子に思いを馳せていただきたい。



『これで使えるQGIS入門：地図データの入手から編集・印刷まで 増補改訂版』

【執筆等教員】 金 徳謙(商学部) 金徳謙著 ナカニシヤ出版 2025年4月 196ページ 2,970円(税込)

本書は、難解な概念の説明を最小限に、QGISのインストール手順から、初学者にもわかりやすい図説による地図の作成方法や各種アウトプットの手法に至るまで、QGISの活用法を、学習をあきらめた人でも確実に操作スキルを習得できるよう構成している。さらに、他の書籍ではあまり取り上げてない地図の融合(Dissolve)時に生じる不具合への対処法や、テーブル結合(Joint)の際の再計算についても、丁寧に解説している。



『新・地域の社会学』

【執筆等教員】 伊藤 泰郎(人文学部) 森岡清志編 有斐閣 2025年3月 290ページ 2,640円(税込)

人や文脈によってさまざまに用いられる“地域”という言葉をとらえなおし、身近な生活の拠点である地域における人間・社会の営みを社会学の視点から解明する初学者向けのテキスト。2008年に刊行され刷を重ねた『地域の社会学』から、第1部の理論編を踏襲しつつ、地域社会の多様な側面を描くとともに、新たに子育て、若者の生きづらさ、外国人、防災、都市下層、地域交通などの現代的なテーマが加えられた。



『移民の衣食住Ⅱ 海を渡って住むこと』

【執筆等教員】 佐藤 量(人文学部) 河原典史,佐藤量編著 文理閣 2025年3月 264ページ 3,300円(税込)

海外で住むとはどのような経験であろうか。特に、排除や差別にさらされやすいマイノリティである移民はどのように暮らしてきたのか。本書は、北米やアジアにおける日系移民の生活世界を描き出すものである。移民にとって住まいは、単なる生活の場ではなく、出身地の文化を受け継ぎつつ、新しい環境に適応していくための重要な文化的・精神的拠点であったことが明らかになる。



『社会学で考える』

【執筆等教員】 中根 光敏(人文学部) 中根光敏,仁井田典子,伊藤泰郎,河口和也著 松籟社 2025年5月 275ページ 2,640円(税込)

「ミステリーとしての現実」「個人化社会の生きにくさ」「日本社会の国際化」「自己責任から社会問題を構築する」「階層と教育格差」「消去されるセクシュアリティと表象」を課題とした六つの論考から成っている。社会との関係において自己を問い、不断に更新し続けていく自己反省的学問＝社会学を学ぶために編まれた本書は、多様な領域に拡大し、変容していく現代社会に生きる〈私たち〉を社会的に考えるためのテキストである。



『刑法の「通説」』

【執筆等教員】 伊藤 嘉亮(法学部) 仲道祐樹,樋口亮介編 日本評論社 2025年3月 264ページ 2,640円(税込)

「通説で教えて欲しい」という学生の声をきっかけに企画を立ち上げ、刑法学における「通説」が確立していく軌跡を調査・分析した一冊である。その中で、「通説」が共同正犯の成立要件として提示する「共同実行の意思と共同実行の事実」定式や「共謀と共謀に基づく実行」定式がどのように形成されてきたのかを考察することで、共同正犯論に取り組む際の「見取り図」を提供しようと試みている。



『よくわかる日本法制史』

【執筆等教員】 三阪 佳弘(法学部) 岩谷十郎,松園潤一郎,高田久実編著 ミネルヴァ書房 2025年5月 304ページ 3,080円(税込)

本書は、日本法の歴史を「古代・中世・近世・近現代」に区分して、各時代の「法」「法学」「法律家」「裁判」に関わるさまざまな項目を見開きで解説し、法律も歴史も幅広く学びたい人のために編まれた。本書を繙けば、現在当然と考えられている法の常識が、過去には必ずしも当てはまらないことに気づくだろう。そのことによって、現在の法のあり方を当然のものと考えず、新たな視点で見直していく発想を生み出してほしい。



『裁判法』

【執筆等教員】 門脇 美恵(法学部) 小原将照,斎藤司,門脇美恵著 八千代出版 2025年5月 175ページ 2,200円(税込)

本書は法律学を初めて学ぶ学生を念頭に、司法制度の全体像を概観し、刑事訴訟、民事訴訟および行政訴訟の基本的仕組みを把握するための入門書である(紹介者は第4章「行政訴訟」担当)。三名の大学教員が専門分野の訴訟法を簡潔に概説するハンディな一冊である。アクティブラーニングを意識し、また楽しみながら読み進めてもらえるように、随所に法的論点に関するコラム、アンケート、本・映画の紹介コーナーを設けている。



『スタンダード法学 改訂版』

【執筆等教員】 柳生 一成(法学部) 松嶋隆弘,鬼頭俊泰,松井文晴編著 荒川卓ほか著 芦書房 2024年4月 372ページ 2,750円(税込)

法律の初学者が最初の一冊として選ぶ「スタンダード」な書籍として、オーソドックスな内容・構成となっている。法を適切に用いて問題解決を図るために必要な、法の基礎・一般理論につき概観し、法の勘所である法の解釈方法、適用ルールを押さえた後、「国際社会と法」など、法の領域を5つに分けて平易に解説する。「国際社会と法」に関しては、ロシアによるウクライナ侵攻など、時事問題を理解するための基礎的な知識を提供する。



『18歳からはじめる国際法』

【執筆等教員】 柳生 一成(法学部) 佐藤哲夫,渡辺豊,中西優美子編 法律文化社 2025年5月 112ページ 2,420円(税込)

国際社会のルールはどのようなものであり、どのように守られているかという「国際法」について、ロシアによるウクライナ侵攻など最近の国際状況も踏まえ、基礎を易しく解説する入門書。「捕鯨問題」や「オンラインカジノと日本の刑法」など時事問題に関するコラムや資料および図表を豊富に用い、さらに丁寧な語句解説もなされている。法学や国際法になじみのない読者でも読みやすく、かつ理解しやすい工夫が随所に凝らされている。



INFORMATION

第65回 修大祭 11/3 月・祝 10:00～20:00



修大生はもちろん、卒業生や保護者、一般の方も大歓迎！ **入場無料！**

今年のテーマは「蝶結(りぼん)～繋いで創る修大祭～」

“蝶結”という言葉にはリボンを結ぶように人と人、想いと想いを繋ぎたいという願いを込めました。さらに「リボン=REBORN(再生・新生)」という意味を重ね合わせ、創始300周年という節目にふさわしい新たな時代の修大祭を作りあげていこうという決意を表しています。

- ① **プレイグラウンド企画**

学内のさまざまな団体が屋台を出店
ステージにて、アーティストライブ、
サークル発表
- ② **講演会**

俳優による講演・トークショー
● 修大講堂

ゲストについては
WEBサイトをご確認ください。
- ③ **ゲーム教室**

射的を実施。景品もあります！
● フォーラム2階
- ④ **フォトハント**

ユニークな姿のスタッフと
チェキ撮影！お楽しみに！
- ⑤ **ウッドステージ企画**

演武祭やサークルによる
演奏会、作品展示、マジックショー
- ⑥ **マーケット企画**

キッチンカー・クラフト体験
● 図書館前広場
- ⑦ **キャンドルナイト企画**

キャンドルとライトアップで
修大祭の夜を彩ります。
● ハーモニーロード
- ⑧ **ビンゴ大会**

豪華賞品を準備しています！
● 修大講堂
- ⑨ **スタンプラリー**

● 学内3カ所設置

※ご来場につきましては、公共交通機関をご利用ください。
※タイムテーブル、企画紹介などの詳細については
本学公式WEBサイト掲載のパンフレットをご確認ください。



新体育館完成までの道のり

最終回

学校法人修道学園創始300周年記念事業として建設を進めていた新体育館がついに完成しました。ガラス張りで特徴的な外観の新体育館は、単なる体育施設としての機能だけでなく、多様な利用目的をもつ利用者が集い、つながる場を創造する施設をめざします。新体育館については、次号にて特集を組んで紹介させていただく予定です。



施主検査の様子



寄附のお願い

学校法人修道学園 創始300周年記念新体育館建設事業寄附金

広島修道大学のさらなる発展にける思いをご理解いただき、新体育館建設事業寄附金募集に格別のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

(2026年3月31日迄)

新体育館建設事業寄附金
お申込みはこちら >>>



広島修道大学寄附金

平素より広島修道大学の教育活動にご理解とご支援をいただき、感謝申し上げます。今後ともあたたかいご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

広島修道大学寄附金
お申し込みはこちら >>>



2024年度 広島修道大学決算／2025年度 広島修道大学予算

広島修道大学の2024年度決算を公表しました。また、2025年度予算を、中期事業計画、財政計画および予算編成方針に基づき策定し、公表しました。詳細は大学WEBサイトでご確認ください。

2024年度決算 >>>



2025年度予算 >>>



EVENT

ホームカミングデー

11/3 月・祝 11:30～(予定)

ホームカミングデーを昨年に引き続き本学にて開催します。本学卒業生とご家族、現役学生(一部イベントは卒業生限定)であれどなたでもご参加いただけますので、ぜひお越しください。

参加お申込みはこちら >>>



入試相談会

開催地	開催日	会場／イベント	時間
広島	9月27日(土)	広島産業会館 西展示館	10:00～16:30
オンライン	10月4日(土)	夢ナビライブ(オンライン)	10:00～10:40 12:00～12:40
松江	10月24日(金)	松江テルサ	16:00～18:30
広島	11月5日(水)	広島産業会館 東展示館	15:30～18:00
岡山	11月6日(木)	岡山コンベンションセンター	15:00～18:30

※変更となる場合もありますので、本学入試情報サイトで確認のうえ、ご参加ください。

入試情報サイト >>>



入学試験スケジュール >>>



WEB入試直前対策講座

12/1 月・祝 ～ エントリー受付開始

12/8 月・祝 ～ 特設ページ公開

予備校講師による「本学一般選抜・共通テスト対策講座」をはじめ、一般選抜(前期)の対策・準備に役立つコンテンツを公開。

就職・キャリア支援ガイダンス・セミナー

ガイダンス・セミナー	開催日	対象
合同オープンカンパニー	9月18日(木)、19日(金)	全学年
4年生スタートガイダンス	9月24日(水)	4年生、大学院2年生以上
就活スタートガイダンス	10月1日(水)、2日(木)、 1月14日(水)、15日(木)	全学年
学内合同企業説明会	10月9日(木)、10日(金)	4年生、大学院2年生以上
公務員試験合格報告会	12月1日(月)	全学年

※上記以外にも筆記試験対策、面接・グループディスカッション対策を含めた各種就職対策セミナーの実施を予定しています。詳しくはキャリアセンターまでお問合わせください。

アンケートにご協力ください

「広報誌TRUTH」および「本学広報」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。いただいたアンケート内容は今後の誌面作りおよび広報活動に活用させていただきます。また、アンケートでプレゼントを希望された方の中から、抽選で修大オリジナルグッズをプレゼントします。

応募締切:1月30日(金)

※当選はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

アンケートは以下のURLもしくは2次元コードからWEB上にてご回答ください。
<https://ws.formzu.net/dist/S76003108/>



PRESENT

抽選で20名様に
「しゅうまるボールペン」をプレゼント！



表紙写真のご紹介 撮影サークル:大学祭実行委員会



大学祭実行委員会は11月3日の大学祭開催に向けて129名で活動しています。大学祭当日は多岐にわたる企画を実施するため、プレイグラウンド企画、ウッドステージ企画、講演会企画、マーケット企画、事務・広報企画、キャンドルナイト企画の6つのグループに分かれて、それぞれの企画・運営にあたっています。